

お母さん

小川未明

青空文庫

正ちゃんしょうちゃんは、目をめさますと、もう朝あさでした。窓まどが明あかるくなつて、どこかあまどで雨戸あまどをく繰おとる音がおとしました。けれどそばねに寝ねている兄にいさんも、目めをめさまさなければ、またお母かあさんもお起おきなさらぬようすです。

「きようは、日曜にちようび日にちなんだ。」

いつもなら、みんなが、こうゆつくりしてはいられぬのでした。正ちゃんしょうちゃんは、いつも日曜にちようは、朝あさがおそいのを知しっていました。それをうつかりして、いつもと同じおなような気きになつて、三人にんで、八時じから釣つりにいく約束やくそくをしたのでした。かならず、七時半じはんに迎むかえにくると勇いさむちゃんいさむがいつたから、もう起おきて、ご飯はんを食たべな

ければなりませんでした。

「お母さんかあを起こおこそうかしらん。」と、考かんえていましたが、まず、兄にいさんについてみようと、

「兄にいちゃん、まだ起おきない？」と、声こえをかけました。小ちいさな声こえで、いったのだけれど、兄にいさんは、目めをふさいでいても、いつも、いまごろ起おきる習しゅう慣かんがついているので、半はん分ぶんさめていたとみえて、

「正しょう二じ、きようは日にち曜よう日びだろう。お母かあさんをゆつくり寝ねかしておいてあげな。音おとをたてると、お母かあさんが、目めをおさましになるよ。」といいました。

なるほど、そうだった。いつも早はやく起おきてくださるのだから、

きようは、お母かあさんをゆつくり寝ねかしてあげなければならぬと、
 正しょうじ二におもにも思おもわれたのでした。

「ああ、あんな約束やくそくをしなければよかつた。これから、勇いさむちや
 んの家いえへいって、断ことわつてこようかしらん。」と、正しょうじちゃんは、気
 がもめてなりませんでした。

「僕ぼく、釣つりにいく約束やくそくをしたのだよ。」

「だれとかい。」と、兄あにの敏としお夫おさんは、こちらへ向むき直なおつて聞き
 きました。

「茂しげるちやんと、勇いさむちやんと三人にんで、八時じにいくつて。」と、正しょうじ
 ちゃんやんが、いいました。

「いま何時なんじだろうな。」と、敏としお夫おさんが、いいました。

「もう六時過ぎだろう。」

「だけど、起こしては、お母さんに悪いじゃないか。」

「僕、勇ちゃんのところへ行って、断ってくるよ。」

「もう、すこし待ってみな。」

「だって、勇ちゃんは、七時半にくるといったもの。」

「正ちゃんは、独り、起きて、洋服に着かえると、二階から下

りてきました。」

すると、お母さんの姿が見えません。おへやは、もうちやんと

きれいにかたづいていました。

「おや、お母さんは？」

「正ちゃんは、お勝手もとへ行ってみました。ガスに火がついて、

お汁しるのなべが、かかっていた。そこにもお母かあさんは、いらつしやいません。

「お母かあさんは、どこへいったらうな。」

このとき、お母かあさんは、外そとから、お豆腐とうふをいれた入れ物いものを持って、帰かえっていらつしやいました。

「すぐに、ご飯はんにしてあげますよ。」と、おつしやいました。

「うん、お母かあさんは、早いはやね。」と、正しょうちゃんが、いいました。

「だって、あんたが、釣つりにいくんでしよう。」と、お母かあさんはおつしやいました。

「どうして、わかったの？ 勇いさむちゃんが、迎むかえにきた？」と、正しょうちゃんおどろは、驚おどろいて、ききました。

「いいえ、だれもきませんよ。お母さんには、なんでも、あんたのすることはわかるのです。」

「お母さんは、えらいなあ。」と、正ちゃんは、お母さんの顔を見上げました。

「えらいでしょう。だから、うそをいっても、お母さんには、すぐわかりますよ。」

「僕、うそなんかいわないよ。」

「だから、お母さんは、こうして、正ちゃんの思うようにしてあげるので。」

まだ年のいかなない正ちゃんは、おとなしくご飯をいただいていた。

お母^{かあ}さんは、昨夜^{さくや}、物置^{ものおき}の前に^{まえ}、釣りざおが一本^{ほんた}立^たてかけてあり、その下^{した}に、小さなバケツとみみず箱^{ばこ}が、置^おいてあるのをごらんになって、

「おお、ちゃんと用意^{ようい}がしてあること。」と、なんとなくいいらしいような気^きがして、お笑い^{わら}になったのでした。それで、きようは日曜日^{にちようび}だけれど、早く出^でかけるものと思^{おも}って、いつもと同^{おな}じように、お起^おきなされたのであります。

正^{しょう}ちゃん^{ちゃん}は、日^ひごろ、やさしい、いいお母^{かあ}さんだと思^{おも}っていています。しかし、いつになつたら、このお母^{かあ}さんの愛^{あい}が、ほんとうにもっと深^{ふか}くわかるであらうでしょうか。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977（昭和52）年10月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

底本の親本：「日本の子供」文昭社

1938（昭和13）年12月

初出：「教育行童話研究」

1938（昭和13）年5月

※表題は底本では、「お母《かあ》さん」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年9月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さん

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>